

ハイジャックジャーナルを識別し 回避するためのヒント

Brian Sanford and Richard Bradly Harris

ThinkSCIENCE, Inc. | [Publishing](#)



スパムメールから、政治家や有名人になりすましたツイッター（現 X [エックス]）のボット（BOT）まで、インターネットを利用した悪質な行為が横行するなか、オンラインでの交流には一定の注意を払うことが重要です。学術出版の

世界においても同じことが言えます。ジャーナルは必ずしも見かけ通りのものではないかもしれません。この記事では、評判の高いジャーナルのアイデンティティを盗んで偽造したジャーナルに論文を掲載させ、著者から掲載料をだまし取ろうとする「ハイジャック」ジャーナル（または「クローン」ジャーナル）を回避するためのヒントを紹介します。

学術ジャーナルについて考えるとき、ほとんどの人は権威、信頼性、インテグリティといった特徴を思い浮かべるでしょう。多くの場合、それは間違いではありません。しかし、以前の特集記事で取り上げたように、さまざまな種類の**粗悪なジャーナル**（**predatory journals**）が、著者から搾取することを目的とする悪質な業者によって発行されています。彼らは、論文を有料で掲載しますが、評価の高い信頼あるジャーナルが提供するような価値を著者に与えることはなく、当該著者が自身の評判を落としかねないリスクを生じさせています。



Copyright 2023 © ThinkSCIENCE, Inc.

This work is licensed under a [Creative Commons Attribution-NonCommercial 4.0 International License](#).

ハイジャックジャーナルとは？

2013年3月、*Nature* 誌に「詐欺師たちが実在するジャーナルのアイデンティティを盗み、科学者から掲載料をだまし取っている」という [Declan Butler](#) によるニュース記事が掲載されました。これは最近出てきた問題ではありませんが、いまだにこうした詐欺に遭い、正当なジャーナルになりすまして偽りのビジネスを行う業者のもとで論文を発表する著者がいます。

これらのいわゆるハイジャックジャーナル、またはクローンジャーナルは、著者を欺き、著者が苦勞して取得した研究費を奪いとるために、実在するジャーナルのウェブサイトの名称、ロゴ、ISSN 番号、さらにはサイトの外観さえも模倣することがあります。さらに悪いことに、強力な金銭的インセンティブによって、こうしたジャーナルの検索エンジン最適化（SEO）が向上し、Google Search などの検索結果において、これらの偽ジャーナルが正当なジャーナルよりも上位に表示されることもよく起こります。

では、このようなハイジャックジャーナルに誤って論文を掲載しないようにするにはどうすればよいのでしょうか？

ハイジャックジャーナルを示唆する危険信号

幸いなことに、著者が潜在的な危険信号に積極的に注意を向けることで、ハイジャックジャーナルを回避することは可能になります。実のところ、以前私たちが取り上げた**粗悪なジャーナル**（[predatory journals](#)）や**学術集会**（[predatory conferences](#)）を見分けるためのヒントの多くは、ここでも当てはまるはずです。2019年に [Clarivate](#) 社が書いた**ブログ**にはハイジャックジャーナルの特徴の具体例が挙げられており、彼らがいかに説得力のあるものであるかがわかります。

以下がハイジャックジャーナルの可能性を示唆する危険信号です。

- 研究者から電子メールで原稿を募集し、典型的には迅速な出版を提案する。





Think SCIENCE® Maximize your **success** in publication

- 広範な読者にはあまり知られていない地域ジャーナルの可能性があり、ウェブサイト上に現れているハイジャックの兆候を著者が見逃しやすい。
- インパクトファクターが低い。
- ジャーナルのウェブサイトが適切にフォーマットされていないように見えたり、文法的な間違いや統一されていないところが多く見受けられたりする。しかし、最近では AI 言語ツールを使うことで文法の誤りを“取り繕う”ことができるため、以前ほど明らかな危険信号ではなくなっている。
- 論文の掲載に必要な費用が明示されていない。
- 学術的に質の低い論文や、そのジャーナルの専門とされる分野との関連がほとんど、またはまったくない論文を掲載している。
- ジャーナルを検索すると異なる URL を示す複数の検索結果が出てくる。前述の [Clarivate 社のブログ](#) に掲載されているハイジャックジャーナルを実際に Google Search で検索した結果のスクリーンショットを参照のこと。正当なジャーナルよりもハイジャックジャーナルの方が上位に表示されていることがわかる。
- 査読が行われない、または論文が掲載される前に原稿上の表面的な変更を求めのみで、著者にとっての真の価値を提供しない。

これらのいずれか単独では、必ずしもハイジャックジャーナルであるとは限りません。たとえば、電子メールで原稿を募集するジャーナルは多く、特に総説や特集号への投稿を募集する場合はそうです。しかし、上記に挙げた複数の危険信号が思い当たる場合は、自分が正当なジャーナルに投稿しようとしているかどうかを今一度確認すべきです。



Copyright 2023 © ThinkSCIENCE, Inc.

This work is licensed under a [Creative Commons Attribution-NonCommercial 4.0 International License](#).

ハイジャックジャーナルを見分けて回避するためのヒント



ハイジャックジャーナルの主な関心は著者から論文の掲載料を徴収することであるため、適切な査読や編集を行っていない論文を採択する傾向があります。そのようなジャーナルに論文が掲載された場合、著者自身の評判を落とすリスクが生じます。したがって、自分の原稿を託すジャーナルが正当なジャーナルであるかをチェックし、自身の評判を気にかけるのと同じくらい十分に、ジャーナルの評判にも注意を払うことが非常に重要です。

幸いなことに、あまり馴染みのないジャーナルへの投稿を検討する際に、そのジャーナルの正当性をチェックするのに役立つリソースがいくつかあります。

- [Highjacked Journal Checker](#) には、これまでに確認されたハイジャックジャーナルがリストされています。ウェブサイト [Retraction Watch](#) がこのリストを管理しています ([Google ドキュメント](#)として利用可能)。
- [Directory of Open Access Journals](#) の「削除済み」リストには、標準的な慣行を満たしておらず、DOAJ のディレクトリから削除されたジャーナルがリストされています。リンク先の「[Read the list](#)」をクリックし、開いた文書 ([Google ドキュメント](#)) の一番下にある「[Removed](#)」のタブをクリックすると、削除されたジャーナルのリストと削除理由にアクセスできます。
- 本稿の前のセクションで挙げた複数の危険信号が見受けられないかどうか、あるいは**粗悪なジャーナル (predatory journals)** を特徴づけるものがないかどうかを確認してみましょう。
- ジャーナル名でウェブサイト検索をし、その結果に異なる URL が表示されていたら注意しましょう。表示されたジャーナル名や URL にわずかな違いがないかどうかを注意深く確認してください。このとき、安易に最上位に表示された検索結果が本物のジャーナルであるとは考えないようにしましょう。フィッシング





Think SCIENCE® Maximize your **success** in publication

グメールと同様、表示された URL と実際のリンク先が食い違っていないかを確認しましょう。

- 研究仲間や同僚に、以前にその特定のジャーナルで論文を発表したことがあるかどうかを聞き、ある場合にはどのような経験だったかを尋ねましょう。また、自分の専門分野の他の著者の論文を読んだときに、検討中のジャーナルから論文が引用されているかどうかを確認しましょう。
- ジャーナルの正当性について疑問があれば、図書館の司書やリサーチ・インテグリティ・オフィサーに尋ねてみましょう。また、たとえば、[東邦大学メディアセンター](#)は、ハイジャックまたはクローンジャーナルについてのオンラインポータルを日本語で提供しています。

まとめ

この記事が、ハイジャックまたはクローンジャーナルへの論文掲載や、彼らとの不要なやり取りを回避する一助となれば幸いです。ここで紹介した危険信号やヒントは、ハイジャックジャーナルを見分けるのに役立ちますが、もちろんこれらが唯一の確実な解決策ではありません。投稿を考えているジャーナルがハイジャックか、あるいは粗悪なプレダトリー (predatory) かどうかの判断に確信が持てない方がいらっしゃいましたら、私たちがお手伝いします。[こちらまで](#)ご連絡ください。

オンライン版の記事はこちらから



Copyright 2023 © ThinkSCIENCE, Inc.

This work is licensed under a [Creative Commons Attribution-NonCommercial 4.0 International License](#).